

### 項目9 GIGA端末の着実な更新

児童生徒のGIGA端末を使った学びを中断することなく着実に更新します。

#### めざす姿

##### 環境整備

- ・ 児童生徒用GIGA端末の着実な更新
- ・ 回収端末の適正な処分



##### 児童生徒

- ・ 更新による影響なく、端末を使った学びを継続

#### 課題

- ・ 学びへの影響が生じない端末の更新
- ・ 学校業務に負担をかけない更新の実施
- ・ 回収端末からの情報漏洩防止
- ・ GIGA端末を使うためのネットワークの維持管理
- ・ 更新サイクルを踏まえた計画的な検討

#### 主な取組

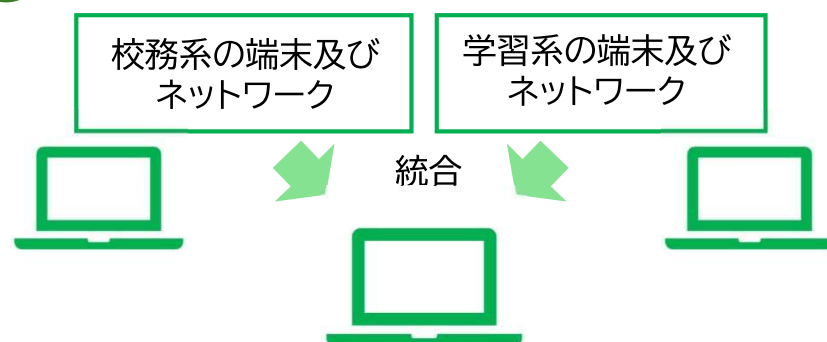
- ・ 原則として児童生徒が不在となる夏季休業中の更新
- ・ 効率的な端末搬入、回収の検討
- ・ 遠隔操作を活用した回収時の情報漏洩防止
- ・ 端末及びネットワークの適切な管理と状況の把握
- ・ 今後の端末等の更新についての検討

## 項目10 強固なアクセス制御環境の構築と端末及びネットワークの統合

強固なアクセス制御環境を構築し、学習系システムのセキュリティを向上させ、校務系データをインターネット経由で利用可能とし、校務系と学習系の端末及びネットワークの統合をめざします。

多要素認証などのシステム整備により、高いセキュリティを確保し、安心安全な環境の構築を進めます。

### めざす姿



### 環境整備

- ・ 強固なアクセス制御環境を構築することで、学習系システムのセキュリティを向上させ、校務系データをインターネットを介して利用可能とする
- ・ 校務系と学習系のネットワークと教職員の端末の統合

### 課題

- ・ 複数端末の使用による教職員の業務煩雑化
- ・ 複数端末・ネットワークの管理による業務負担の増大
- ・ 教職員の柔軟な働き方に対応したシステムの構築
- ・ 「教育DXに係る当面のKPI」で示された令和11年度までの次世代の校務支援システム導入に先立った環境整備（29ページ巻末資料3(5)を参照）

### 主な取組

- ・ 令和10年度までに強固なアクセス制御環境を構築するため、多要素認証などのシステム整備と、端末・サーバ間の通信の暗号化などにより不正アクセスを防止することで、より高いセキュリティを確保し、安心安全な環境を実現
- ・ 校務系と学習系の端末及びネットワークの統合
- ・ 統合に伴う印刷等周辺環境の検討
- ・ 行政基盤ネットワークの利用環境の検討

### 【スケジュール案】

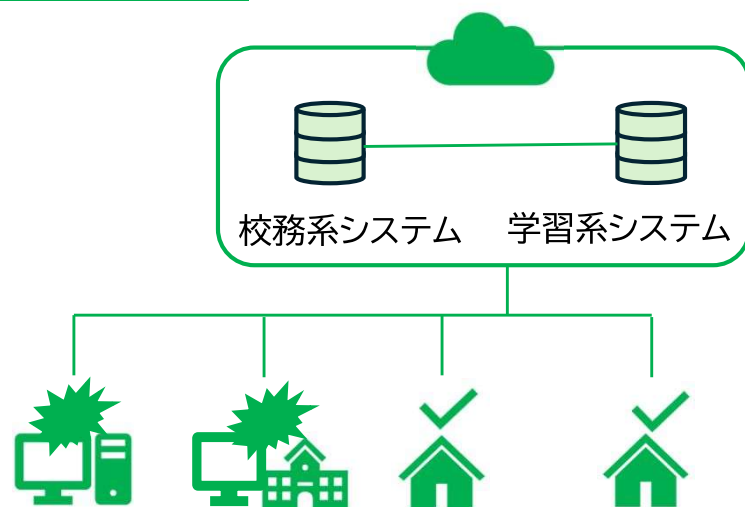
	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
強固なアクセス制御環境	設計	構築	設定完了機器から順次利用開始	
			導入準備	
クラウド型校務支援システム	調査・検討・設計など		構築	利用開始
			導入準備	

### 項目11 レジリエンスの確保

災害や障害などシステムトラブル発生時においても、教育活動や校務への影響を最小限に抑えることのできる環境の実現をめざします。

クラウド利用の推進、災害耐性に優れた本庁舎へのサーバー・ネットワーク拠点機能の移転検討など、レジリエンス※を意識したICT環境整備を進めます。

#### めざす姿



#### 課題

- ・ システム障害や災害時における迅速なサービスの復旧
- ・ トラブル発生時の現場対応力の強化

#### 環境整備

- ・ 災害や障害などシステムトラブル発生時でも、教育活動や校務への影響を最小限に抑える環境の実現

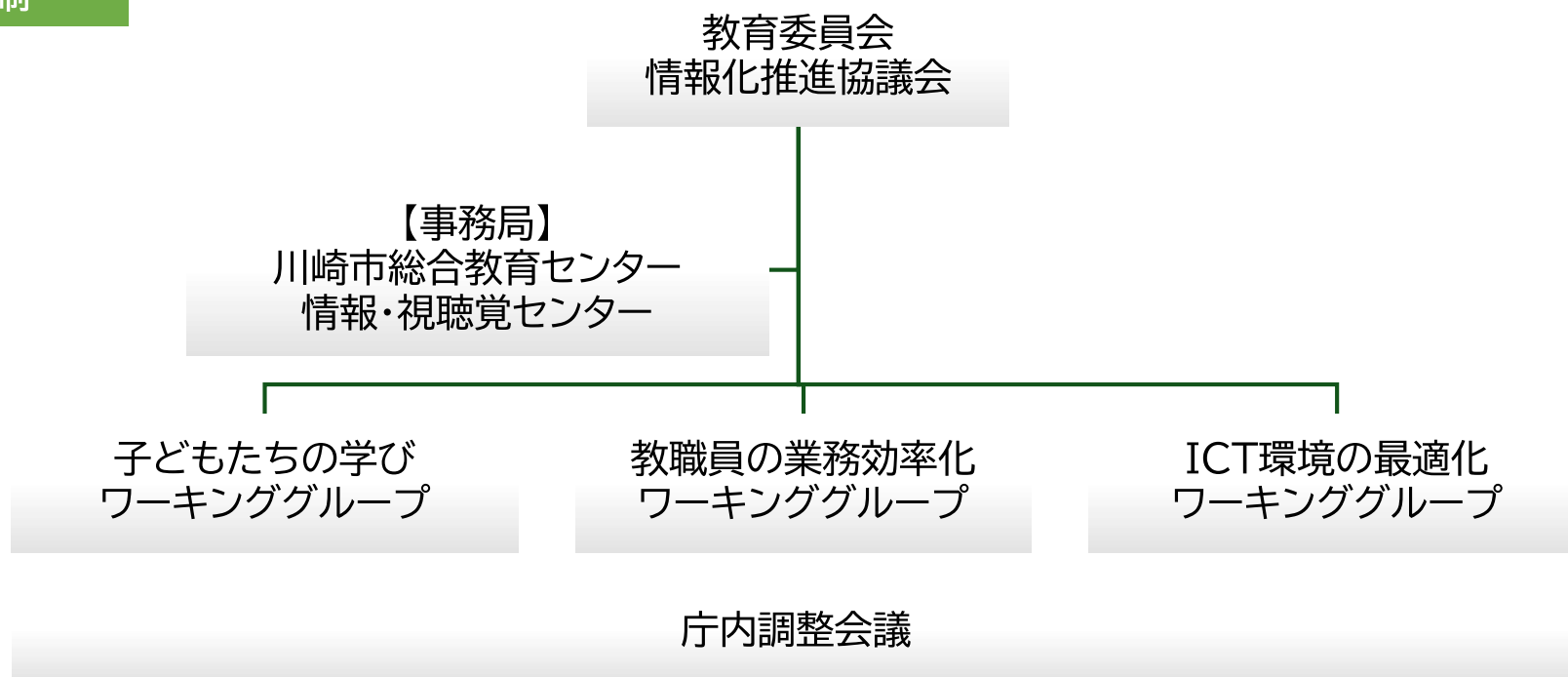
#### 主な取組

- ・ クラウド利用の推進
- ・ 災害耐性に優れた本庁舎へのサーバ及びネットワーク拠点機能の移転検討
- ・ 専門的な知見を取り入れるなど、レジリエンスを意識したICT環境の整備
- ・ 教職員が実践的な対応力を身に付けられるような研修の実施

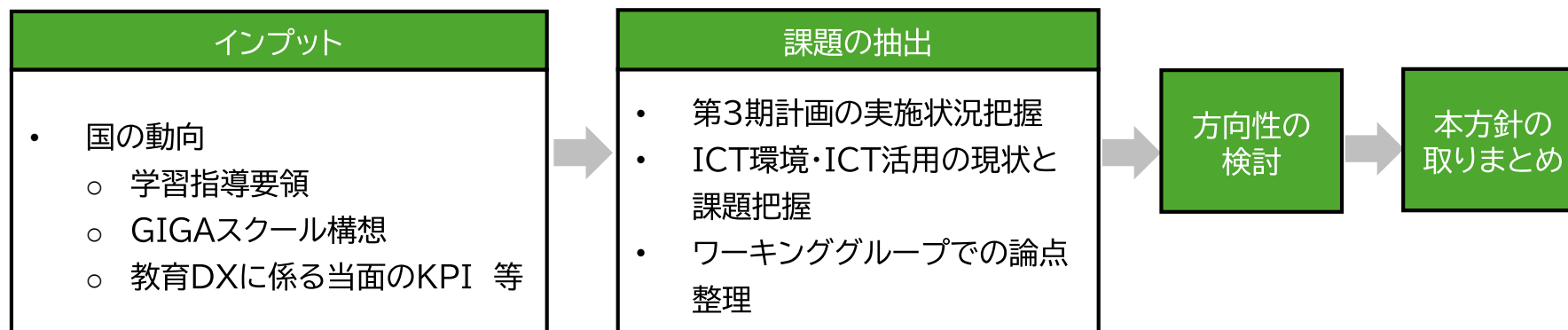
※ システムやネットワーク、ソフトウェアなどが障害・攻撃・予期せぬ事態に直面しても、機能を維持し、迅速に回復できる能力

# 巻末資料1 川崎市立学校におけるかわさき教育DX推進方針の取りまとめについて

## 体制



## 手法



## 巻末資料2 開催会議及び委員

### (1)情報化推進協議会(第1回 令和7年5月22日、第2回 令和7年10月9日、第3回 令和8年1月16日)

教育委員会事務局学校教育部長、総合教育センター所長、総合教育センター担当部長、小学校校長会代表、中学校校長会代表、特別支援学校校長会代表、高等学校校長会代表、教育委員会事務局教育政策室担当課長、小学校代表、中学校代表、特別支援学校代表、高等学校代表(事務局:総合教育センター情報・視聴覚センター)

### (2)庁内調整会議(第1回 令和7年7月4日、第2回 令和7年11月17日、第3回 令和7年12月12日)

総務企画局都市政策部企画調整課担当課長、総務企画局デジタル化施策推進室担当課長、総務企画局公共施設総合調整室担当課長、総務企画局行政改革マネジメント推進室担当課長、財政局財政部財政課長、教育委員会事務局総務部庶務課長、教育委員会事務局総務部学事課長、教育委員会事務局教育政策室担当課長、教育委員会事務局教育環境整備推進室担当課長、教育委員会事務局職員部教職員企画課長、教育委員会事務局職員部教職員人事課長、教育委員会事務局学校教育部指導課担当課長、教育委員会事務局学校教育部支援教育課担当課長、教育委員会事務局学校教育部健康教育課長、教育委員会事務局健康給食推進室担当課長、総合教育センター所長、総合教育センター担当部長、総合教育センター総務室長、総合教育センターカリキュラムセンター室長、総合教育センター情報・視聴覚センター室長、総合教育センター情報・視聴覚センター担当課長(教育システム最適化・GIGAスクール構想推進担当)、総合教育センター情報・視聴覚センター担当課長(GIGAスクール構想推進担当)、総合教育センター特別支援教育センター室長、総合教育センター教育相談センター室長

### (3)ワーキンググループ(令和7年7月3日ほか)

情報化推進協議会事務局を中心とし、子どもたちの学びワーキンググループ、教職員の業務効率化ワーキンググループ、ICT環境の最適化ワーキンググループの3つワーキンググループを設置。各ワーキンググループにて本市の教育DXに向けた取組の方向性について検討を行った。

### (4)局内ワーキング(令和7年8月18日)

庁内調整会議に参加している課の係長級を中心に集め、局内ワーキング会議を開催し、所属での教育DXに係る現状や課題などを共有や、方針の取りまとめに向けて検討を行った。

## 巻末資料3 推進に当たって

情報化推進協議会が中心となり、教育DXを進めていきます。

### 基本的な考え方

- 本方針の方向性に沿って教育DXを推進する。
- 社会の変化に対応し、時代に即した取組・技術を検討する。
- 効率的、効果的に教育DXを進め、GIGA端末を活用した学びの質の向上をめざすとともに、教職員の業務を効率化することで、教育の在り方そのものをより良い形に変えていく。

### 推進体制

学校教育部長を委員長とし、情報・視聴覚センター室長が事務局を担う情報化推進協議会において、本方針の推進状況の把握を行うとともに、国の方針や学校・家庭のニーズに応じた改善・調整を行っていきます。

## 巻末資料4 かわさき教育DX推進方針検討の背景となる国の動向(1)

情報化が加速度的に進むSociety5.0時代において、GIGAスクール構想の推進をはじめ、教育の情報化を取り巻く環境も急激に変化しています。ここでは、本方針を検討するに当たり考慮すべき国の政策動向について記載します。

### 学習指導要領

#### 幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)(平成28年12月 中央教育審議会)

「言語能力」等と同様に「教科等を越えた全ての学習の基盤として育まれ活用される資質・能力」の一つとして「情報活用能力」を掲げ、「教育課程全体を見渡して組織的に取り組み、確実に育んでいくことができるようにすることが重要である」とし、学習指導要領等に反映していくことを提言

#### 小・中・高等学校 学習指導要領(平成29・30・31年改訂 文部科学省)

- 言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む。)、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができる、教科等横断的な視点からの教育課程編成
- 情報手段を活用した学習活動を充実するためには、国において示す整備指針等を踏まえつつ、校内のICT 環境を整備
- 教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメント
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善(アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善)

## 巻末資料4 かわさき教育DX推進方針検討の背景となる国の動向(2)

国の政策である第3期教育振興基本計画、GIGAスクール構想を受け、本市では「かわさきGIGAスクール構想」を推進しています。

### GIGAスクール構想

#### 第3期教育振興基本計画 (平成30年6月 文部科学省)

- ・ 学習者用コンピュータ 3クラスに1クラス分程度整備(測定指標※)  
(目標(19)ICT利活用のための基盤の整備)

#### GIGAスクール構想 (令和元年12月 文部科学省)

- ・ 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現
- ・ これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す。

#### かわさきGIGAスクール構想 (令和2年11月)

- ・ 国の「GIGAスクール構想」に基づき、令和2年度に市立小中学校・特別支援学校(小中学部)の全児童生徒に1人1台端末を配備
- ・ ICTの活用を通して、「かわさき教育プラン」の基本理念である「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」学びを推進

※「今後5年間の教育政策の目標」の状態を直接的・間接的に表す指標のうち、現在の水準等を踏まえ、改善の方向を明記することが必要かつ適切であるものを精選の上、測定指標として設定したもの



## 巻末資料4 かわさき教育DX推進方針検討の背景となる国の動向(3)

「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(中央教育審議会答申)

『令和の日本型学校教育』の構築を目指して  
～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～(答申)  
(令和3年1月 中央教育審議会)

### 急激に変化する時代の中で育むべき資質・能力

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。

### ICTを活用した学びの在り方

- 教育効果を考えて活用することが重要であり、活用自体が目的化しないよう留意する必要
- 対面指導の重要性、遠隔・オンライン教育等の実践による成果や課題を踏まえ、発達の段階に応じ、ICTを活用しつつ、教師が対面指導と家庭や地域社会と連携した遠隔・オンライン教育とを使いこなす(ハイブリッド化)ことで、個別最適な学びと協働的な学びを展開

必要な改革を躊躇なく進めることで、  
「令和の日本型学校教育」を実現

教育振興基本計画の  
理念の継承

GIGAスクール構想の  
実現

学校における  
働き方改革の推進

新学習指導要領の  
着実な実施

### ■「令和の日本型学校教育」の姿

個別最適  
な学び

それぞれの学びを一体的に充実し  
「主体的・対話的で深い学び」の  
実現に向けた授業改善につなげる

協働的  
な学び

## 巻末資料4 かわさき教育DX推進方針検討の背景となる国の動向(4)

### 教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン

学校における情報セキュリティポリシー対策の考え方を整理することを目的として、平成29年に「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」が文部科学省によって取りまとめられました。現在は改訂が重ねられ、令和7年3月には情報資産の分類・仕分け・管理方法や、次世代校務DX環境への意向を進めるうえで必要となるセキュリティ対策に関する記載などが見直され、第5版へと更新されています。本方針は、最新版の教育情報セキュリティポリシーに関するガイドラインに基づいて、検討を行っていますが、ガイドラインにも示されるように、他機関の動向、技術的な進展等を踏まえつつ、随時見直しが必要になります。

#### 令和7年3月改訂で見直された次世代校務DX環境への移行を進める上で必要となるセキュリティ対策に関する記載の概要

- 次世代校務DX環境への移行期間(オンプレミス環境とクラウド環境が共存する期間)は、それぞれの環境に応じた適切なセキュリティ対策を講じなければならないという考え方を加筆
- 強固なアクセス制御に基づくセキュリティ対策を講じる際には多要素認証による本人認証が望ましいものの、教育現場の実態や特徴を踏まえ、端末の電子証明書等を用いた端末認証と知識認証・生体認証のいずれかを組み合わせて認証を行うことも考えられる旨を記載
- 強固なアクセス制御に基づくセキュリティ対策に関わる要素技術について、最新の知見や教育現場の実態に基づき項目を一部見直し

教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン  
(令和7年3月)

平成29年10月18日 策定  
令和3年5月 改訂  
令和6年1月 一部改訂  
令和7年3月 改訂

文部科学省

# 巻末資料4 かわさき教育DX推進方針検討の背景となる国の動向(5)

## 教育DXに係る当面のKPI

文部科学省が令和6年4月22日に公表した「教育DXに係る当面のKPI」では、①個別最適・協働的な学び②情報活用能力の向上③学びの保障④働き方改革への寄与といったアウトカムについて、その進捗状況を具体的に可視化するための具体的なKPIが示されました。本方針は本KPIに対する実現状況を踏まえて検討を行っています。

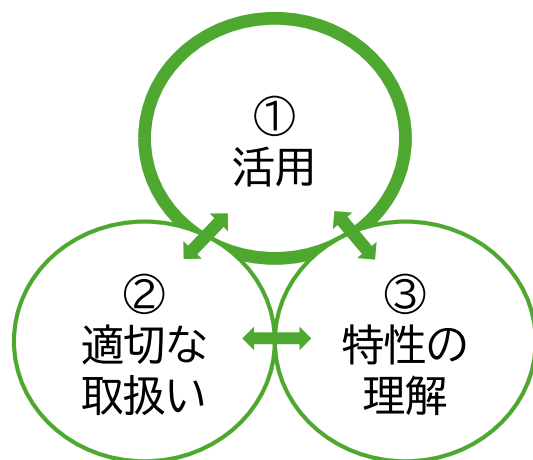


文部科学省「デジタル行財政改革会議(第5回)」資料(令和6年4月22日)より

## 巻末資料4 かわさき教育DX推進方針検討の背景となる国の動向(6)

教育課程企画特別部会 論点整理

教育課程企画特別部会 論点整理(令和7年9月 中央教育審議会)



### 情報活用能力を構成する各要素の関係整理

- 自らの人生や社会のために課題解決や探究ができる力がこれからの時代を生きる上で不可欠であることから、「①活用」を情報活用能力の中核的な構成要素と整理
- 「①活用」する力を発揮するためには、認知や行動に与えるリスクに対応する「②適切な取扱い」が必要となる
- 仕組みや情報技術の「③特性の理解」によって、より効果的な活用や適切な取扱いが可能になる
- 「②適切な取扱い」、「③特性の理解」を「①活用」を発揮するための構成要素と整理
- 高校段階では、文理を問わず生成AI時代に不可欠な基礎的な素養である「③特性の理解」を身に付けられるよう、内容を充実させる

### 発達段階に即した学習活動の検討

- ✓ 小学校段階: 体験的な活動を重視し、「①活用」を中核としながら、「②適切な取扱い」、「③特性の理解」と相まって培う
- ✓ 中学校段階以降: 各要素の内容を深めつつ、より抽象的・科学的な理解を必要とする「③特性の理解」を一層重視

## 巻末資料5 本市における教育DXの状況(1)

### 川崎市総合教育計画・かわさき教育プラン・教育の情報化推進計画の実施期間

	平成 27 年度 2015 年度	平成 28 年度 2016 年度	平成 29 年度 2017 年度	平成 30 年度 2018 年度	平成 31 年度 2019 年度	令和 2 年度 2020 年度	令和 3 年度 2021 年度	令和 4 年度 2022 年度	令和 5 年度 2023 年度	令和 6 年度 2024 年度	令和 7 年度 2025 年度	令和 8 年度 2026 年度	令和 9 年度 2027 年度	令和 10 年度 2028 年度	令和 11 年度 2029 年度
川崎市総合計画															
		第1期 実施計画	第2期 実施計画				第3期 実施計画				第4期 実施計画				
かわさき教育プラン	第2次 第1期 実施計画		第2次 第2期 実施計画				第2次 第3期 実施計画				第3次 第1期 実施計画				
教育の情報化推進計画 (教育DX推進方針)	第1期 計画期間		第2期 計画期間				第3期 計画期間				本方針				

## 巻末資料5 本市における教育DXの状況(2)

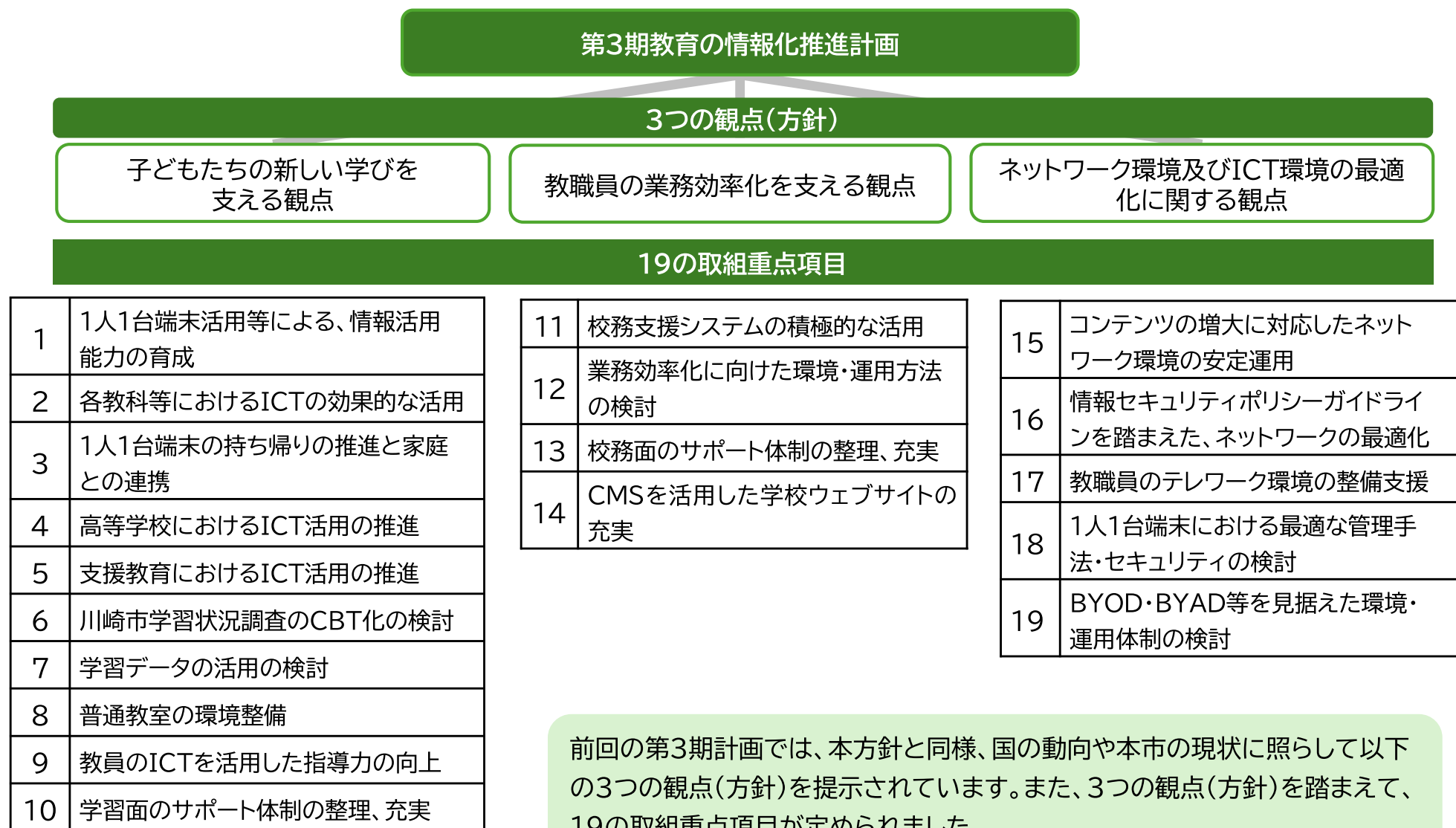
### 本市のこれまでの教育の情報化推進計画

	時 期	名 称	概 要
1	平成18年3月	「教育の情報化」5カ年計画	国の「IT新改革戦略」の各目標を5年間で達成する計画を策定
2	平成19年7月	「教育の情報化」推進計画2007	川崎市新総合計画を具現化するための実行計画の見直しにあわせて、上記計画を踏まえた平成19年度版の推進計画を策定
3	平成20年4月	「教育の情報化」推進計画2008	上記の平成20年度版を策定
4	平成21年5月	「教育の情報化」推進計画2009	国の「スクール・ニューディール構想」を踏まえ、補正予算等を盛り込んだ事業計画を策定
5	平成24年3月	川崎市教育の情報化推進計画 (第1期計画)	平成24年度～28年度の本市における教育の情報化の方向性を示した
6	平成29年3月	川崎市立学校における教育の情報化推進 (第2期計画)	平成29年度～令和3年度の本市における教育の情報化の方向性を示した (平成24年度計画からみると、第2期の計画)
7	令和4年3月	川崎市立学校における教育の情報化推進 (第3期計画)	令和4年度～7年度の本市における教育の情報化の方向性を示した (平成24年度計画からみると、第3期の計画)



## 巻末資料5 本市における教育DXの状況(3)

### 第3期教育の情報化推進計画(前期計画)の施策推進状況



## 巻末資料5 本市における教育DXの状況(4)

### 第3期教育の情報化推進計画(前期計画)の施策推進状況

本方針を検討するに当たり、情報化推進協議会において、第3期計画に掲げられた重点事項の進捗状況に関して、この4年間で「A:実現済 計画通り実施した」、「B: 取り組み中 一部計画通り実施した」、「C:実施手法の見直しが必要になった」の3段階で評価・確認しました。

観点	重点事項		評価
子どもたちの新しい学びを支える観点	1	1人1台端末活用等による、情報活用能力の育成(情報モラルを含む)	A
	2	各教科等におけるICTの効果的な活用	A
	3	1人1台端末の持ち帰りの推進と家庭との連携	A
	4	高等学校におけるICT活用の推進	A
	5	支援教育におけるICT活用の推進	A
	6	川崎市学習状況調査のCBT化の検討	A
	7	学習データの活用の検討	A
	8	普通教室の環境整備	A
	9	教員のICTを活用した指導力の向上	A
	10	学習面のサポート体制の整理、充実	A
教職員の業務効率化を支える観点	11	校務支援システムの積極的な活用	A
	12	業務効率化に向けた環境・運用方法の検討	A
	13	校務面のサポート体制の整理、充実	A
	14	CMSを活用した学校ウェブサイトの充実	A
ネットワーク環境及びICT環境の最適化に関する観点	15	コンテンツの増大に対応したネットワーク環境の安定運用	A
	16	情報セキュリティポリシーガイドラインを踏まえた、ネットワークの最適化	A
	17	教職員のテレワーク環境の整備支援	A
	18	1人1台端末における最適な管理手法・セキュリティの検討	A
	19	BYOD・BYAD等を見据えた環境・運用体制の検討	A



監修

野中 陽一（横浜国立大学教授）

原 克彦（目白大学教授）

川崎市立学校におけるかわさき教育DX推進方針  
令和8年 月  
川崎市教育委員会  
総合教育センター 情報・視聴覚センター  
電話 044-844-3711  
88zyojoc@city.kawasaki.jp